

日本における疼痛治療の抜本的改革を支援する 教育プログラムについて

日頃は日本疼痛学会の活動にご参加、ご協力いただき深く御礼申し上げます。さてこの度、国際疼痛学会と日本疼痛学会の共同事業として、ファイザー製薬からの助成金により、「日本における疼痛治療の抜本的改革を支援する教育プログラム」が立ち上がり先日発表されました。

これは、日本における疼痛治療を改善するための教育プログラムを支援するもので、対象は痛み治療に関わるすべての関係者であり、さらに行政や痛みの患者教育なども含まれます。日本国内のすべての痛みに関わる組織／団体であれば申請可能であり、総額 200 万ドル、日本円で 2 億円を超える規模であります。

是非、日本の痛み治療を大きく改善するための教育プログラムを構築いただき、申請いただきたく思います。

本プロジェクトの詳細は、国際疼痛学会の WEB サイト

(<http://www.iasp-pain.org/Education/GrantDetail.aspx?ItemNumber=7756>)

の中の詳しい英語もしくは日本語の募集要項 (RFP) をご覧下さい。

なお、応募はまず一次審査（応募期限 9 月 30 日）のための提案概要（LOI）を提出いただき、その後二次審査へと移行します。両審査とも提案は日本語でも可能でありますので、是非多くの応募を期待しております。

日本語の募集要項の中で

P 8 付属書:プロジェクトの概要(LOI: 一次審査の提出ガイダンスの中段に

- D&I(Dissemination and Implementation) 研究
- 品質向上(Quality Improvement)

という項目があり、続いて説明記載があります。

この部分の記載についてIASPに確認したところ、ファイザーが世界中で展開している研究助成の文言がそのままの形で残っているということです。今回の公募は本文に書

かれていますとおり、「日本における疼痛治療の教育」のためのものであり、3番目の教育
または教育研究 のみが公募対象であることをご注意願います。

また、P6 の問い合わせ先ですが、grants@iasp-pain.org にて質問を受けるとの記載
がありますが、日本疼痛学会事務局 jasp-office@umin.ac.jp におきましても質問を受
け付けます。

よろしくご検討をお願い申し上げます。

一般社団法人日本疼痛学会 理事長
野口 光一